

米国・カナダ・オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

●米国：2024年12月10日公表ほか USDA Crop Production

10月の農業気象概況（2024年11月8日公表）

9月末にミシシッピ渓谷を横断して被害を与えたハリケーン・ヘレンの余波が東方に及ぼされ、10月初めには大西洋沿岸中部の諸州に降雨をもたらした。その一方で、アパラチア山脈南部に歴史に残る突発的な大災害をもたらした大洪水に引き続く捜索及び復旧の動きは、温暖でおおむね乾燥した条件下で進められた。ハリケーン・ヘレンは、2005年のハリケーン・カトリーナ以降で最大の死者数を米国本土にもたらした。ハリケーンによる被害の査定額及び復旧費用は、さらに拡大して、ハリケーン・ヘレンの強風の影響を受けた米国南東部の諸州及びハリケーンによる記録的な高波の影響を受けたフロリダ州のメキシコ湾沿岸地域にも生じている。

ハリケーン・ヘレンによる米国南東部諸州の深刻な大洪水の後は静穏な日々が続いた。しかし、その静けさは、カテゴリー3のハリケーン・ミルトンの来襲によって突然に破られた。ハリケーン・ミルトンは、最大風速54m/秒に近い強風を伴って10月9日夕方にフロリダ州メキシコ湾沿岸地域のサラソタ付近に上陸した。ハリケーン・ミルトンは、寒冷前線の接近に伴って最悪の状況をもたらし、ハリケーンの北側に当たるタンパベイ地域では、45m/秒を上回る突風及び洪水に至る降雨（ところにより305mmから508mm）が生じた。さらに、ハリケーン・ミルトンは、1m52cmを超える高波を生じさせた。ハリケーン・ヘレンによりフロリダ州中西部のバリアアイランド（海岸に沿って平行にある長く狭い砂がちの島）に被害が生じてから2週間も過ぎていないにもかかわらず、海沿いの地域は再び水位の上昇により甚大な被害を受けた。暴風雨が最高潮に達した10月9日から10月10日にかけて、営農組織を含む350万件で停電が生じた。イチゴ及び柑橘類といったフロリダ州の主要作物の一部に被害が拡大した。上陸に先立つ10月9日に、ハリケーン・ミルトンの東側の暴風雨帯では30以上の竜巻が起きており、局所的にはあるが大損害が生じている。ハリケーン・ミルトンの通過後には、フロリ

ダ半島中央部の各地で記録的に大規模の河川の氾濫が起きている。

上記以外の大部分の地域の10月の気象状況は、ほぼ例外なく温暖で乾燥したものとなった。温暖で乾燥した気候が続いたことは、農作業にも作物の生育にも理想的であり、米国全体のダイズの収穫は、2010年度以降では最速のペースで進行した。10月27日までに米国のほぼすべてに近い（89%）ダイズの収穫が終了し、トウモロコシも81%の収穫が終了しており、それぞれ最近5年間の平均であるダイズの78%、トウモロコシの64%を大幅に上回った。農作業の急速な進行は他の作物にも広がり、テンサイ（10月27日の時点での収穫率83%、最近5年間の平均は78%）、綿花（10月27日の時点での収穫率52%、最近5年間の平均は46%）及びヒマワリ（10月27日の時点での収穫率47%、最近5年間の平均は40%）でも収穫が促進された。しかし、9月及び10月に米国中西部で干ばつが激しくなった時点でほぼ成熟していたトウモロコシ及びダイズとは異なり、綿花の場合は米国南西部でのハリケーン、特にハリケーン・ヘレンによる被害を受けており、さらに大平原地域南部での干ばつの影響があり、10月27日の時点で作柄が「優」から「良」までの水準に達していた作物の比率は33%に過ぎなかった。

10月27日の時点で、米国全体の土壌水分含有量は、米国農務省国内農業統計局（USDA、NASS）によれば、「非常に不足」から「不足」の比率が、その1週間前及び2022年10月23日の68%の水準を上回って、最近10年間で最高の73%に達していると評価されている。このような乾燥状態により、冬作コムギの一部に作付け及び発芽の遅れが生じており、10月27日までの発芽率は56%に留まり、最近5年間の平均の61%を下回っている。10月27日の時点での冬作コムギの作物年度第1回目の作柄報告書では、米国全体の冬作コムギの作柄の38%が「優」から「良」、23%が「極不良」から「不良」と評価されており、21世紀に入ってから作物年度第1回目の作柄報告書としては、2番目に低い値となっている。これより低い値だったのは、2022年10月30日付けの「優」から「良」が28%、及び「極不良」から「不良」が35%であった。

広範囲にわたる干ばつのもとで、米国において干ばつ状態にある面積の割合は、米国干ばつ監視委員会（the U.S.Drought Monitor）によれば、10月29日までの4週間に22.58%増加して、31.50%から54.08%となった。米国南部の48の州で干ばつ状態にある面積の割合が50%を超えたのは、2022年12月以来のことである。さらに、10月29日までの時点で、米国南部の48州の「異常

な乾燥」(D0)と「中程度」から「例外的な干ばつ」(D1からD4)までの状態にある面積の合計の割合は87.16%に達し、米国干ばつ監視委員会にとって画期的な値となった。これ以前の最高記録は、2022年11月1日付けの85.28%であった。D0からD4までの面積の割合が初めて80%を超えたのは、2012年夏のことであったが、2012年7月17日の80.76%で頂点に達している。

10月末の時点で、米国東部では降雨は見られていない。従って大西洋沿岸中部の諸州では、多くの地域で10月としては最も乾燥した記録となり、年間を通じても記録史上最も乾燥した1カ月間となったところが多かった。デラウェア州のウィルミントン及びジョージタウン、ニュージャージー州のトレントン及びニューアーク、並びにペンシルバニア州のフィラデルフィアでは、10月にわずかな降雨があったものの、以上の5都市で1カ月を通して計測可能な降雨が見られなかったのは記録史上初めてである。大平原地域、米国南部及び米国中西部の各地域でも、10月末まで記録的に乾燥した10月であったことが観測されている。ルイジアナ州ラファイエットでは、9月25日から36日間計測可能な降雨がなかったが、10月30日に104mmの降雨があった。ミシシッピ州メリディアンでは、10月に入って完全に乾燥した日々が続いたが、10月30日になって71mmの降雨があった。しかし、10月末の降雨は米国南部の一部の地域には達するに至らず、10月中の降雨の報告があったのは、テキサス州(オースチン及びカレッジステーション)、ジョージア州(アトランタ、オーガスタ及びメーコン)、並びにコロンビア州、サウスカロライナ州であった。以上の地域のはるかに北方のアイオワ州スーシティーでは、10月1日から10月29日までの降水量はわずかなものであったが、10月の最後の2日間に16mmの降雨があった。

乾燥した状態に温暖な気温が伴うのが、特に米国西部及び米国中央部の10月の気候の特徴であった。10月の月別平均気温は、大平原地域、米国南西部及び米国中西部北方では、平年並みを2.2℃～4.4℃上回った。最も温暖だった地域では、生育期間の遅い時期に最高気温が計測されたこと、並びに10月として一定の値を超える気温の日数が最も多かったことで数多くの記録が達成された。一例を挙げると、アリゾナ州タクソンでは、10月に37.8℃を超える日が13日あったことで記録が達成された。これまでの記録は、2020年の8日であった。その一方で、米国東部及び太平洋沿岸北西部では、平年並みに比べていくらか冷涼な気候であったが、どちらの地域でも10月の気温として

平年並みに近いが、平年並みをやや上回る気温が計測されている。

表1 米国の乾燥インゲンマメ等の生産見通し

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2023	2024	2023	2024	2023	2024	2023	2024
ヒヨコマメ	150,710	203,960	145,360	201,090	1.47	1.38	214,190	278,140
乾燥インゲンマメ	477,530	619,990	468,190	602,380	2.32	2.22	1,084,540	1,335,740
乾燥エンドウ	390,930	399,830	380,810	383,240	2.15	2.28	820,370	874,440
レンズマメ	220,960	378,790	211,650	364,220	1.23	1.19	260,450	432,640

生産量：米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)から、2024年12月10日付けで公表。

米国の2023作物年度及び2024作物年度(推定)の作物別作付面積、収穫面積、単収及び生産量。

データは、入手可能な最新の推定値であって、最新の報告書または前回の報告書に基づいている。2024作物年度については、現行作物年度の推定である。

●カナダ：2024年11月19日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops ●

概観

本報告書は、10月時点でのカナダ農業食料省（AAFC）の2024/25作物年度の生産見通しを、2024年11月12日までに入手できた情報に基づいて更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は、8月1日に始まり、7月31日に終わる。トウモロコシ及びダイズについては、作物年度は9月1日から8月31日までである。ロシアのウクライナ侵攻、地政学上の懸念及び貿易の不安定性により、カナダ及び世界の穀物市場は引き続き不確実な状況にある。

乾燥エンドウ

2024/25作物年度のカナダの生産量は、前年度に比べて21%増加して316万tとなる見込みである。これは、主として単収の上昇によるもので、特にカナダ全体のエンドウ生産量の53%を占めるサスカチュワン州で単収が上昇した。黄色乾燥エンドウの生産量は、前作物年度に比べて増加して250万tとなる見込みであり、緑色乾燥エンドウ生産量は、47万tまで増加する見込みである。その他の各種銘柄の乾燥エンドウ生産量の合計も、増加して16万tとなる見込みである。期初在庫量が少なかったことから、供給量は前作物年度を6%上回るに留まり、350万tとなる見込みである。輸出量は前作物年度と変わらず240万tとなる見込みである。2024年8月から9月までの時点では、中国及びインドがカナダの輸出先の上位2位までを占めている。供給量が増

加したことで、期末在庫量は大幅に増加するものと見込まれている。2024/25作物年度の平均価格は、すべての銘柄についてスポット価格が低下したことから、2023/24作物年度に比べて12%低下して405ドル/tとなる見込みである。

10月中に、サスカチュワン州の黄色乾燥エンドウの生産者価格は15ドル/t上昇し、緑色乾燥エンドウの生産者価格は30ドル/t上昇した。現時点での作物指標によれば、カナダ産第1等級及び第2等級の乾燥エンドウ供給量が全体の供給量に占める割合は、前作物年度と同様となる見込みである。このことと、カナダの乾燥エンドウ生産量が増加したことにより、2024/25作物年度のカナダ産第1等級及び第2等級の乾燥エンドウ供給量は増加する見込みである。2023/24作物年度の同時期には緑色乾燥エンドウの価格が黄色乾燥エンドウの価格を185ドル/t上回っていたが、2024/25作物年度の現時点までのところでは、緑色乾燥エンドウの価格が黄色乾燥エンドウの価格を165ドル/t上回っている。

レンズマメ

2024/25作物年度の生産量は、80万t近く（44%）増加して260万tになる見込みであるが、これはカナダ西部で単収が上昇したことによるものである。赤色レンズマメの生産量は、前年度に比べて大幅に増加して160万tとなり、大粒緑色レンズマメの生産量は、前年度に比べて2倍以上増加して70万tとなる見込みである。その他のレンズマメ全品種の生産量は、前年度に比べて増加して60万tとなる見込みである。

期初在庫量が少なかったことから、総供給量の増加率は生産量の増加率ほどではなく35%となる見込みである。輸出量は増加して210万tとなる見込みである。現時点では、インド、トルコ及びアラブ首長国連邦が輸出市場の上位を占めている。期末在庫量は大幅に増加して48万tとなる見込みである。全般的に平均価格は、2023/24作物年度の水準に比べて15%低下して850ドル/tとなる見込みであり、等級分布は平年並みを上回っている。

10月中にサスカチュワン州の大粒緑色レンズマメの生産者価格は165ドル/t上昇し、赤色レンズマメの生産者価格は65ドル/t上昇した。これは主としてレンズマメの輸出需要が強かったことによる。前作物年度に比べて、2024/25作物年度は、第1等級及び第2等級のカナダ産レンズマメ総供給量が増加する

見込みである。現時点までのところ、大粒緑色レンズマメの価格は、赤色レンズマメの価格を510ドル/t上回っているが、2023/24作物年度には、赤色レンズマメの価格を785ドル/t上回っていた。

乾燥インゲンマメ

2024/25作物年度の生産量は、4%増加して35万2,000tとなる見込みである。このうち6万3,000tがホワイト・ビーンであり、28万9,000tがカラード・ビーンである。オンタリオ州及びマニトバ州の生産量は、作付面積の増加が単収の低下を相殺したことで増加した。アルバータ州では、同様に単収は低下したが、作付面積が増加したことでカラード・ビーン生産量が増加した。期初在庫量が少なかったことから、総供給量は9%の減少となる見込みである。

輸出量は、前年度に比べて減少する見込みである。8月及び9月のデータによれば、EU諸国及び米国が輸出市場の上位を占めている。期末在庫量は増加する見込みである。カナダ産乾燥インゲンマメの平均価格は、北米大陸全体での供給量が増加したことにより、前年度と比べて低下して1,100ドル/tとなる見込みである。

ヒヨコマメ

2024/25作物年度の生産量は、前作物年度に比べて2倍以上増加して32万7,000tと推定されている。これは作付面積の増加及び単収の上昇によるものである。カブリー種及びデシ種の両方の生産量が前作物年度に比べて増加する見込みである。しかし、期初在庫量が大幅に少なかったことから、総供給量の増加率は34%に留まる見込みである。輸出量は、19万tとなる見込みであり、米国及びEU諸国が輸出市場の上位を占めている。総供給量が増加したことにより、期末在庫量は大幅に増加する見込みである。カナダ産ヒヨコマメの品質は平年並みを上回る見込みであるが、世界的に生産量が増加する見込みであることから、平均価格は、前作物年度に比べて低下して800ドル/tとなると予測されている。

表2 カナダの豆類収穫面積、単収その他

		収穫面積 (1,000ha)	単収 (t/ha)	生産量 (1,000t)	輸入量 (1,000t)	総供給量 (1,000t)	輸出量 (1,000t)	国内 総利用量 (1,000t)	在庫量 (1,000t)	生産者 価格 (ドル/t)
乾燥エンドウ	2022-2023	1,348	2.54	3,423	35	3,797	2,564	684	550	440
	2023-2024	1,200	2.17	2,609	127	3,286	2,401	586	299	460
	2024-2025f	1,268	2.49	3,160	30	3,489	2,400	639	450	405
レンズマメ	2022-2023	1,715	1.36	2,331	87	2,642	2,209	222	211	820
	2023-2024	1,460	1.23	1,801	92	2,104	1,674	265	165	1,000
	2024-2025f	1,677	1.55	2,593	75	2,833	2,100	258	475	850
乾燥インゲンマメ	2022-2023	117	2.67	313	70	523	371	72	80	1,165
	2023-2024	129	2.63	339	70	489	408	61	20	1,215
	2024-2025f	149	2.36	352	75	447	355	62	30	1,100
ヒヨコマメ	2022-2023	95	1.54	146	42	364	198	73	93	1,000
	2023-2024	127	1.25	159	47	299	183	87	30	1,005
	2024-2025f	189	1.73	327	45	402	190	87	125	800

(a) 作物年度は、8月から7月までである。

(b) 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれていない。

(c) 国内総利用量は、食用、工業用、飼料用、種子用及び損耗からなる。

(d) 生産者価格は、すべての銘柄、等級及び市場の平均価格でFOB価格である。

資料：カナダ統計局(STC)、カナダ農業食料省(AAFC)。

f: カナダ農業食料省(AAFC)による予測値である。ただし、2024/25作物年度の収穫面積、単収及び生産量については、カナダ統計局(STC)による予測値である。

● オーストラリア：2024年12月3日公表 ABARES Australian crop report December 2024

概観（抜粋）

2024/25作物年度のオーストラリアの冬作物の総生産量は、2023/24作物年度から16%増加して5,510万tと見込まれている。この値は、2023/24作物年度までの10年間の平均を17%上回っており、予測通りになれば記録史上5番目の生産量となるであろう。オーストラリアの冬作物の総生産量の予測値は、州によって生育条件に差はあるものの、冬作物の収穫期間中の情報により増加の方向に修正される見込みである。

オーストラリア気象庁が2024年11月28日に公表した最新の降水量予測によれば、大部分の冬作物生産地域で降水量が12月の中央値を上回る可能性が増している。2024年12月の総降水量は、ニューサウスウェールズ州で25mm～50mm、ヴィクトリア州及び南オーストラリア州の大部分の地域で10mm～25mm、並びに西オーストラリア州で5mm～25mmとなるものと見込まれている。オーストラリア東部では、12月初めに相当な量の降雨及び暴風雨となる見込みが強まっている。予測通りになれば、オーストラリア東部の生産地域では、まだ収穫の済んでいない冬作物の収穫に支障が生じ、穀物の等級が低下する恐れがある。

オーストラリアの冬作物生産量の見通しは、『2024年9月時点のオーストラリア作物報告書』(September 2024 Australian Crop Report) と変わりが

ない。ニューサウスウェールズ州、クイーンズランド州及び西オーストラリア州での生産量の増加によって、オーストラリア南東部の大部分での、乾燥が続いた上に広範囲に及ぶ深刻な霜害に見舞われたことによる生産量の減少及び収穫時の損失がほぼ埋め合わせられる見込みである。州によって見通しに差異はあるものの、オーストラリア全体の生産見通しでは、2024/25作物年度のすべての主要な冬作物の生産量が平年並みを上回る見込みである。

2024/25作物年度のレンズマメ生産量は、29%減少して110万tとなる見込みである。この値は、『2024年9月時点のオーストラリア作物報告書』の値を34%下方修正したものであるが、これは主として南オーストラリア州及びヴィクトリア州で収穫量の見通しが低下したことによるものである。しかし、オーストラリア全体の生産量は、2024/25作物年度のレンズマメの作付面積が過去最高記録に達するものと見込まれていることから、2023/24作物年度までの10年間の平均である76万4,000tを大幅に上回る見込みである。

2024/25作物年度のヒヨコマメ生産量は、284%増加して190万tとなる見込みである。この値は、『2024年9月時点のオーストラリア作物報告書』の値を42%上方修正したものであり、2023/24作物年度までの10年間の平均を141%上回っている。これは、作付面積の増加、ニューサウスウェールズ州及びクイーンズランド州で最良の作付条件及び生育条件に恵まれたことによるオーストラリア全体としての単収の向上、並びに有利な価格によるものである。予測通りになれば、ヒヨコマメの生産量は記録史上第2位となる見込みである。

表3 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積(1,000ha)			生産量(1,000t)		
	2022-23s	2023-24s	2024-25f	2022-23s	2023-24s	2024-25f
ヒヨコマメ	397.5	409.0	988.5	541.0	491.2	1 886.7
ファバビーン(ソラマメ)	330.0	343.1	398.5	730.0	640.4	693.5
フィールドピー	198.0	192.0	193.0	313.8	228.0	222.0
レンズマメ	692.3	790.0	946.8	1 688.8	1 567.9	1 116.4
ルーピン	536.4	441.0	514.5	1 100.8	565.8	763.0

f: ABARESによる予測。

S: ABARESによる推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12カ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。作付面積には、収穫に至った面積、途中で飼料用に転用された面積及び収穫を断念した面積が含まれる。

資料: ABARES(オーストラリア農業資源経済局)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia。

表4 オーストラリアの州別生産量

		ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
		作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)
ヒヨコマメ	2022-23s	160.0	192.0	25.0	40.0	200.0	292.0	8.0	10.0	4.5	7.0	0.0	0.0
	2023-24s	150.0	165.0	25.0	30.0	220.0	280.0	10.0	12.0	4.0	4.2	0.0	0.0
	2024-25f	550.0	1 100.0	24.0	22.0	400.0	750.0	10.0	9.0	4.5	5.7	0.0	0.0
	2022/23年 度までの5年 間の平均	198.9	290.4	30.8	34.8	219.6	297.1	11.5	12.8	6.8	6.0	0.0	0.0
フィールド ビー	2022-23s	45.0	47.3	40.0	76.6	0.0	0.0	75.0	120.0	38.0	70.0	0.0	0.0
	2023-24s	40.0	40.0	45.0	60.0	0.0	0.0	75.0	86.0	32.0	42.0	0.0	0.0
	2024-25f	50.0	65.0	40.0	40.0	0.0	0.0	70.0	65.0	33.0	52.0	0.0	0.0
	2022/23年 度までの5年 間の平均	35.8	39.7	55.0	82.8	0.0	0.0	83.6	103.9	41.8	56.1	0.0	0.0
レンズマメ	2022-23s	15.0	15.8	345.0	750.0	1.3	1.5	320.0	900.0	11.0	21.5	0.0	0.0
	2023-24s	10.0	15.0	380.0	780.0	0.5	0.4	390.0	760.0	9.5	12.5	0.0	0.0
	2024-25f	35.0	39.9	430.0	535.0	1.3	1.5	470.0	525.0	10.5	15.0	0.0	0.0
	2022/23年 度までの5年 間の平均	10.8	12.2	298.3	535.0	0.7	0.7	272.0	562.8	12.4	16.4	0.0	0.0
ルーピン	2022-23s	50.0	70.0	40.0	48.0	1.4	2.8	45.0	55.0	400.0	925.0	0.0	0.0
	2023-24s	45.0	60.0	40.0	41.0	0.9	1.4	40.0	48.0	315.0	415.0	0.1	0.4
	2024-25f	90.0	125.0	35.0	30.0	1.5	3.0	38.0	35.0	350.0	570.0	0.0	0.0
	2022/23年 度までの5年 間の平均	57.7	81.7	39.5	42.9	1.0	1.5	45.4	54.8	404.9	634.9	0.1	0.5

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作付面積には、収穫に至った面積、途中で飼料用に転用された面積及び収穫を断念した面積が含まれる。生産量は、営農組織における推定生産額(EVAO)をもととして、1986/87年度から1990/91年度までは20,000ドル以上、1991/92年度から1992/93年度までは22,500ドル以上、1993/94年度から2014/15年度までは5,000ドル以上及び2015/16年度からは40,000ドル以上のEVAOに達している営農組織を対象として示している。

資料: ABARES(オーストラリア農業資源開発局)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia。

表5 オーストラリアの豆類の供給及び利用状況

		豆類 b	2018-19 (1,000t)	2019-20 (1,000t)	2020-21 (1,000t)	2021-22 (1,000t)	2022-23 (1,000t)	2023-24s (1,000t)
生産量	ルーピン		799	591	866	958	1101	566
	フィールドビー		160	210	399	261	314	228
	ヒヨコマメ		205	235	876	1062	541	491
見かけ上の 国内利用量 a	ルーピン		526	376	406	400	268	144
	フィールドビー		87	165	275	66	186	124
	ヒヨコマメ c		1	1	1	1	1	1
輸出量	ルーピン		273	215	459	557	833	422
	フィールドビー		75	48	126	196	129	105
	ヒヨコマメ		371	349	879	594	725	468

a: 生産量に輸入量を加えた値から輸出量を差し引き、さらに在庫量に変化が生じたことが認められたかまたは推定された場合にはその値を差し引いた残りとして算出している。

b: 市場年度は、11月から10月までである。

c: 見かけ上の国内利用量は、輸出量が生産量と在庫量を合計した値を上回った場合には、1.0と表記している。

s: ABARESによる推定。

注: 輸出量のデータは、市場年度に基づくものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。生産量は、営農組織における推定生産額(EVAO)をもととして、1986/87年度から1990/91年度までは20,000ドル以上、1991/92年度から1992/93年度までは22,500ドル以上、1993/94年度から2014/15年度までは5,000ドル以上及び2015/16年度からは40,000ドル以上のEVAOに達している営農組織を対象として示している。

資料: ABARES(オーストラリア農業資源開発局)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia。

表6 オーストラリアの豆類価格の推移

	2023				2024		
	第1四半期 (豪ドル/t)	第2四半期 (豪ドル/t)	第3四半期 (豪ドル/t)	第4四半期 (豪ドル/t)	第1四半期 (豪ドル/t)	第2四半期 (豪ドル/t)	第3四半期 (豪ドル/t)
国内価格：ルービン(フィナナ調べ)	329.2	356.7	386.9	430.0	482.3	564.2	558.1
国内価格：ヒヨコマメ(メルボルン調べ)	576.5	596.7	691.5	822.5	870.8	943.8	965.7
国内価格：フィールドビー(メルボルン調べ)	548.4	521.8	485.2	517.0	536.8	578.2	564.6
輸出価格：ヒヨコマメ b	811.4	769.4	663.3	839.2	965.3	1,020.0	1,046.0
輸出価格：フィールドビー b	576.6	629.4	539.4	684.8	657.4	596.3	623.7

a：単位重量当たりの価格は、米ドルで表記された日別買取価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて換算したものである。

b：単位重量当たりの輸出価格は、その四半期において輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たりの輸出価格の平均(F.O.B.本線渡し)である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点との間には、大きな時間差が生じる可能性がある。

注：第1四半期は1月から3月まで、第2四半期は4月から6月まで、第3四半期は7月から9月まで、第4四半期は10月から12月までである。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

資料：ABARES(オーストラリア農業資源経済局)、ABS(オーストラリア統計局)、CME グループ、IGC(国際穀物審議会)、Jumbuk AG、USDA(米国農務省)。